

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭60-69690

⑬ Int. Cl. 4

B 43 K 8/02
7/02

識別記号

庁内整理番号

7231-2C
7231-2C

⑭ 公開 昭和60年(1985)5月17日

審査請求 未請求 (全1頁)

⑮ 考案の名称 カートリッジインキ補充式筆記具

⑯ 実 願 昭58-162069

⑰ 出 願 昭58(1983)10月21日

⑱ 考 案 者 大 下 勝 二 東京都台東区上野1丁目15番3号 セーラー万年筆株式会社内

⑲ 出 願 人 セーラー万年筆株式会社 東京都台東区上野1丁目15番3号

⑳ 代 理 人 弁理士 田原 寅之助

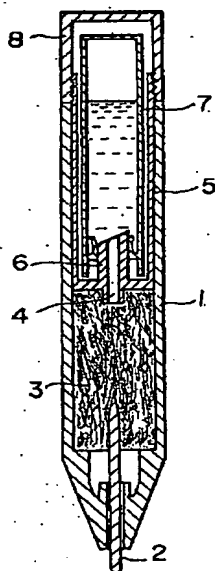
㉑ 実用新案登録請求の範囲

インキ吸蔵体中のインキをペン体に伝達する筆記具であつて、インキ吸蔵体の後端にカートリッジインキ筒を接続し、このインキ筒内のインキをインキ吸蔵体に補充可能としたカートリッジインキ補充式筆記具。

図面の簡単な説明

図面は本考案実施例の断面図を示す。

1…軸筒、2…ペン体、3…インキ吸蔵体、4…インキ通路、5…接続筒、6…突刺管、7…カートリッジインキ筒、8…後蓋。



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-69690

⑬ Int. Cl. 4

B 43 K

8/02

7/02

識別記号

庁内整理番号

7231-2C

7231-2C

⑭ 公開 昭和60年(1985)5月17日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 カートリッジインキ補充式筆記具

⑯ 実 願 昭58-162069

⑰ 出 願 昭58(1983)10月21日

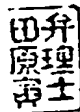
⑱ 考 案 者 大 下 勝 二

東京都台東区上野1丁目15番3号 セーラー万年筆株式会社内

⑲ 出 願 人 セーラー万年筆株式会社

東京都台東区上野1丁目15番3号

⑳ 代 理 人 弁理士 田原 寅之助



明

細

書

1. 考案の名称

カートリッジインキ補充式筆記具

2. 実用新案登録請求の範囲

インキ吸蔵体中のインキをペン体に伝達する筆記具であって、インキ吸蔵体の後端にカートリッジインキ筒を接続し、このインキ筒内のインキをインキ吸蔵体に補充可能としたカートリッジインキ補充式筆記具。

3. 考案の詳細な説明

本考案はカートリッジインキ補充式筆記具に関するものである。

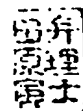
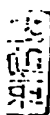
水性ボールペンやマーキングペンの様に、インキを極細繊維で成形されたインキ吸蔵体に吸蔵させ、このインキを中継芯などを介してペン体に伝達するようにした筆記具は多い。このインキ吸蔵体を使用すれば、ペン体へのインキ量を調節し、

実開60-60690

(1)

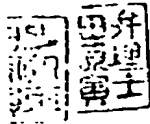
954

BEST AVAILABLE COPY



また過剰インキを貯溜させるペン芯が不器なために構造が簡単となり、更に、ペン体へのインキ伝達量が適量であってインキのボタ落ちが発生しない長所がある。しかし、インキ吸蔵体は極細繊維を引き揃えて成形したものであるため、インキが直接貯蔵されるインキ筒と異なってインキ吸蔵量が少なく、更に、吸蔵されたインキの最後の一滴まで使用することができずに、かなりの量が残留するため、筆記可能距離が短かく、筆記不能となれば捨てられるいわゆる使い捨て型の筆記具であった。

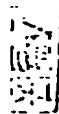
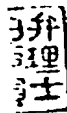
そこで本考案は、これらの事情に鑑みて、インキ吸蔵体中のインキをペン体に伝達する筆記具にインキの補充を可能とし、長期間使用可能なカートリッジインキ補充式筆記具を提供することを目的とし、その構成は、前記の筆記具において、インキ吸蔵体の後端にカートリッジインキ筒を接続し、このインキ筒内のインキをインキ吸蔵体に補



充可能としたことを特徴とする。

以下に図面に示す実施例に基いて本考案を具体的に説明する。

図面はマーキングペンにおける例を示すが、軸筒 1 の先端開口から弾質プラスチック製のペン体 2 が突出し、その後端は軸筒 1 に内蔵されたインキ吸蔵体 3 に差し込まれており、インキ吸蔵体 3 に吸蔵されたインキが適量だけペン体 2 に伝達されて筆記に供される。このインキ吸蔵体 3 はポリエステルなどの極細繊維を引き揃え、外周を固めて棒状に成形されたものであって、通常使用されているものと同様である。そして、軸筒 1 の後端からは、中央にインキ通路 4 があけられた有底筒状の接続筒 5 が圧入嵌合されて、その前面がインキ吸蔵体 3 の後端面に接触している。この接続筒 5 の底面内部には突刺管 6 が設けられ、これにカートリッジインキ筒 7 が接続できるようになっている。そして後端部には後蓋 8 が着脱自在に螺着



されている。

しかして、上記構成の筆記具にて筆記すればインキ吸蔵体 3 に吸蔵されたインキが減少するが、それにつれてインキ筒 7 内のインキがインキ通路 4 を通ってインキ吸蔵体 3 に補充されるので筆記可能距離が著しく長くなる。そしてインキ筒 7 内のインキが無くなると新しいインキ筒 7 に取替えればよく、ペン体 2 が磨耗などにより筆記不能となるまで筆記できるので従来に比べて筆記具の寿命は著しく長くなる。

なお、以上はマーキングペンにおける実施例であるが、水性ボールペンやその他の筆記具にも適用できることは明らかである。

以上説明したように、本考案は、インキ吸蔵体の後端にカートリッジインキ筒を接続し、このインキ筒内のインキをインキ吸蔵体に補充可能としたので、本考案に従えば、長期間使用可能なカートリッジインキ補充式筆記具を提供することがで

弁理士
田原寅之助

きる。

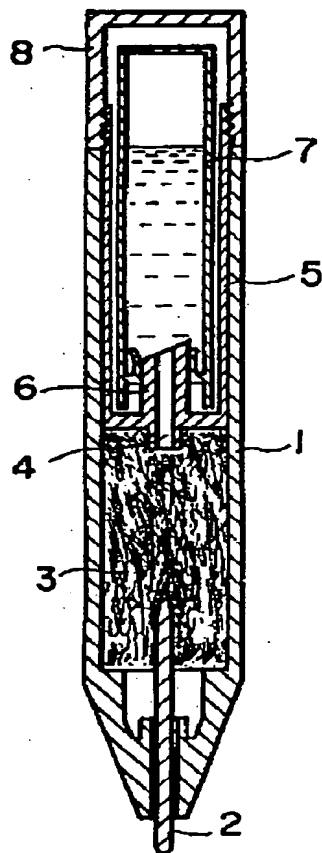
4. 図面の簡単な説明

図面は本考案実施例の断面図を示す。

- 1 … 軸筒 2 … ペン体 3 … インキ吸蔵体
4 … インキ通路 5 … 接続筒 6 … 突刺管
7 … カートリッジインキ筒 8 … 後蓋

出願人 セーラー万年筆株式会社

代理人 弁理士 田 原 寅之助



959

出願人 セーラー万年筆株式会社
代理人 弁理士 田原寅之助

実開60-69690

BEST AVAILABLE COPY